

44th Concert Concertino di Kyoto

コンチエルティーノ・デイ・キョウト 第44回演奏会

2002 11/24日曜日 2:30PM

京都市東部文化会館

主催 才能教育研究会京都支部

P R O G R A M

ビバルディ *Vivaldi* シンフォニア ト長調
Sinfonia in G
 アレグロ/アンダンテヴィヴァーチェ/テンポ ディメヌエット
Allegro/Andante vivace/Tempo di Menuet

バッハ *Bach* ヴァイオリンとオーボエの為の協奏曲 二短調
Concerto for Violin & Oboe in d
 アレグロ/アダージョ/アレグロ
Allegro/Adagio/Allegro

独奏 *Solists* 市原 満 (Ob) ・ 山本 佳奈 (Vn)
Man Ichihara(Ob) Kana Yamamoto(Vn)

モーツァルト *Mozart* ディベルティメント K. 138 ヘ長調
Divertiment K138 in F
 アレグロ/アンダンテ/プレスト
Allegro/Andante/Presto

ドヴォルザーク *Dvorak* 弦楽のためのセレナーデ ホ長調
Serenade for Strings in E
 モデラート/テンポ ディ ヴァルス/スケルツォ/
 ラルゲット/アレグロヴィヴァーチェ
Moderato/Tempo di Valse/Scherzo/Largetto/Allegro vivace

市原 満 (オーボエ)



トランペットを北村源三、北川晋、故金石幸夫の各氏に師事。80年東京藝術大学音楽学部別科修了。同年オーボエに転向。似鳥健彦氏に師事した後、81年ドイツに留学。ベルリンでH. シェレンベルガー(ベルリンフィル)、ミュンヘンでM. クレメント(バイエルン放送響)の各氏に師事。86年帰国以来多数のリサイタル、ソロコンサートを開催。NHK-FMリサイタル出演J. ハンコック(元ジュリアード音楽院教授)と共演等ソロの他、木管五重奏団アマデウス・クインテットを主宰し、活発に演奏活動を行っている。その他、吹奏楽コンクール、アンサンブル・コンテストの審査員、各地で吹奏楽講習会の講師を務める他、「バンドジャーナル(音楽之友社)・ワンポイントレッスン」の連載等執筆活動も行い、多方面で活躍している。玉川大学芸術学部講師。日本オーボエ協会常任理事。(使用楽器:Loree Royal GP)

曲目解説

シンフォニア ト長調

ヴィヴァルディ

ヴィヴァルディは生前ヨーロッパ全土でその名を知られ、歓迎され、演奏されていたがその死とともに、冷遇を受けるようになった。1世紀が過ぎた頃、同じような経過をたどったバッハの名がメンデルスゾーンによって復活したことにより、彼の草稿を調査しているうちに「バッハ編曲によるヴィヴァルディの協奏曲」が発見され、その後研究が進み、バロック期のコンチェルト grosso やシンフォニーの確立に決定的な役割を果たした功績を認められている。シンフォニアは器楽合奏曲の名称でオペラの序曲等に用いられた単一楽章のイタリア風序曲とのちの交響曲の元となった多楽章曲があり、この曲でも急-緩-急の三楽章形式になっている。

ヴァイオリンとオーボエの為の協奏曲 二短調

バッハ

1730年頃に書かれた「2台のチェンバロのための協奏曲八短調」の原曲とされるが原作は失われている。バッハは多くのチェンバロ協奏曲を書いているがその中には自作や他人の曲を編曲したものも多く、この曲もそのひとつ。20世紀にはいってから音楽学者でバロック音楽研究家であるマックス・シュナイダーがヴァイオリンとオーボエに復元するという形で書き改めた。

ディベルティメント K. 138 ヘ長調

モーツァルト

18世紀の貴族たちは食事の時にはお抱えの楽団に伴奏音楽を演奏させたものである。ディベルティメントはそのために作られたもので、肩のこらない気軽な内容を持っている。編成や形式は様々で弦楽合奏だけのもの、管楽器が入ったもの、組曲のようにいくつもの楽章から成っているものもある。モーツァルトのディベルティメントは20数曲残っているが、この二長調はもっとも初期、1772年に作曲された3曲のうちの1曲で、最も有名な曲の一つである。前年までの2度にわたるイタリア旅行の収穫である流麗な旋律と、はつらつとした元気さにあふれている。

弦楽のためのセレナーデ ホ長調

ドボルザーク

オーストリア政府から奨学金を受けるようになり、物質的な心配がなくなった時期に書かれたこの曲は、安らかな気分満ちた、しっかりと落ち着いた響きで、しかし陽気な気分を表す音も欠けてはいない。18世紀まで盛んに書かれた弦楽合奏の曲が、その後次第に管弦楽へと発展していったため19世紀にはほとんど書かれなくなりチャイコフスキーやグリーグやスークなどととも数少ないレパートリーになっている。

Concertino di Kyoto

指揮	新井 寛
Violin	山本佳奈 壁瀬 智 大八木文人 桜井愛由美 長谷川英司 渡邊乃梨子 井狩苑子 山本怜奈 ニヴォン慧里紗 松川堯彦 畑 亜季 井上 史 磯貝碧里
Viola	江村孝哉 佐々木めぐみ 佐々木弘明 江村美由紀 仲佐悦子
Violoncello	森田健二 渡邊真理子 加藤文枝 田村忠司
Contrabass	江刺 豊
Cembalo	永田悦子

